



下憚伯爵夫人へ宜しく情
 護啓時下益々情事月壯小
 傍声相願ふ毎度荆妻
 後遊快^{辭出心清情暇の快妨は法}
 奉存心^{由謹謝の至心成る}去友の付属法
 海外^{由謹謝の至心成る}不在^{心成る}推察
 なるよりハ美事の出未致セ
 るやハ被存心畢竟情尽
 カ此致す所と考へ国家
 の為めハ恭賀仕ル特又ハ生
 も 陛下の盛因心ハ浴し進
 退自由ハ身とお成り小付
 へ共^{先般}大陸南部漫遊切

符を買入水たるか為め目
 下直方ハ帰国の金ハ就くと
 能ハす依て兩三日中ハ当
 地を祭し土京及び東欧
 諸国伊太利等ハ遊んで
 僅くとも五月中旬まじハ九
 佛國郵船ハ上リ六月中ハ
 東京へ帰着致たまき豫
 定の成る後ハ漫遊中珍奇
 の事柄を見聞致ルハハ時々
 拜陳可仕ル草々不宣
 三月廿九日 英京 行進
 大隈先生侍申

護啓五月二十日祭の尊
 拜誦仕ル陸奥公使ハ
 直接ハ華盛府ハ被
 再教以て京地の近情
 を得ず遺憾ハ奉存
 大ハゆ代ハ近日兩立
 合致少所至極好元々
 川島ハ憚情休神
 大石氏ハ懇賞演説ハ
 取る能ハるしハかどニ
 甚た評判よろしくハ
 三ノフランス等ハ在崗の
 全体ハ敬重セリハ
 等ハ決スル